

両国から江戸の香りを楽しむ

[「両国エリアマップ」](#)  [ここをクリックして地図で場所を確認しましょう。](#)

- 平成30年1月、「東京まち見学会」では大相撲初場所で賑わう両国の、江戸を思い起こす名所などを散策しました。「両国国技館」「回向院」、数々の相撲部屋やちゃんこ料理の店もあり、歩いていると、江戸の香りが感じられるまちです。

JR 両国駅からスタート。西口改札を出て右に顔を向けると、相撲の聖地「両国国技館」が圧倒的な大きさに立ち現れます。また、併設する「相撲博物館」には相撲に関する資料が展示されており、相撲についての蘊蓄を深めることができます。

両国駅西口前の国技館通りを南に下ると、京葉道路との交差点向かいに「回向院」があります。江戸時代、明暦の大火(1657)で亡くなった10万人以上の死者を弔うために建てられたものです。境内にはねずみ小僧治郎吉の墓もあり、合格祈願にくる受験生があとをたちません。また、江戸時代には勧進相撲の興行が行われており、その名残りからか回向院の周辺には、今でもいくつもの相撲部屋があります。

回向院の裏道を両国小学校の方へ少し歩くと、赤穂浪士討ち入り(1702)で有名な、なまこ壁に囲まれた「吉良邸跡」があります。この吉良家上屋敷は広大で、当時約2,550坪ありましたが、現在は約30坪の都指定旧跡として残されています。



【 両国回向院 】



【 吉良邸跡 】

また、吉良邸跡のすぐ隣の両国小学校の角には芥川龍之介文学碑、京葉道路沿いには芥川が1歳から19歳まで過ごした生育の地のプレート、さらに両国公園内には江戸城無血開城を実現させた、勝海舟生誕の地の碑と由来の碑文が立っています。



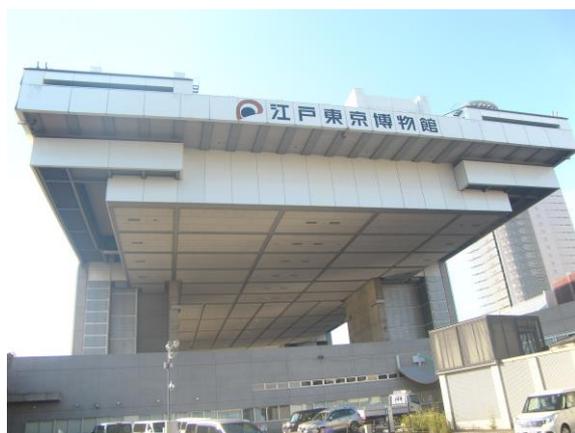
【芥川龍之介生育の地碑】



【勝海舟生誕の地の碑】

両国駅南側で歴史的名所を訪ねた後は、両国駅北側を散策しましょう。
地下鉄大江戸線が地下を走る清澄通りを北上すると、高床式の倉をイメージしたユニークなデザインの建物「江戸東京博物館」がその巨大な姿を現します。ここでは、江戸東京の歴史と文化を模型や資料を用いて紹介されています。

次に、江戸東京博物館前の交差点を東方向へ錦糸町まで続く北斎通りを行くと、江戸東京博物館とは対照的に、公園の隣地に小さく斬新なデザインの建物「すみだ北斎美術館」が在ります。90年の生涯のうち、そのほとんどをすみだで過ごした葛飾北斎。世界の芸術家に大きな影響を与えた、北斎その人の生涯と作品をみることができます。



【 東京江戸博物館 】



【 すみだ北斎美術館 】

両国は江戸時代に明暦の大火により回向院が建てられ、両国橋が架けられることにより、武家屋敷も移転してくるなど、当時の新興住宅地として発展していきました。

また、夏の花火や舟遊び、回向院境内での相撲などと共に、両国橋東西の火除地として設けられた広小路は、屋台の露天商や見世物小屋などで賑わい、対岸の柳橋や薬研堀には料理屋、芸者の置き屋、着物屋なども数多く立ち、江戸有数の盛り場として発展しました。訪れるたびに江戸を感じる両国のまちを、歩きながら楽しく見聞してみましよう。

「 [すみだ](#) 」👉すみだ、両国をもっと知りたいひとはここをクリックしてください

☆☆最後はオススメランチ処の紹介☆☆ [行きたいお店をクリックしてください](#)

壱 [ちゃんこ巴湯](#) 自慢の四大ちゃんこ鍋（醤油味、塩味、水炊き味、味噌味）

弐 [江戸蕎麦 ほそ川](#) 挽きたて、打ちたて、茹でたての十割蕎麦

参 [両国どぜう桔梗屋](#) 創業87年 江戸庶民の味を伝えるどぜう家